



# 「アジャイル開発スタートアップガイド」

---

アジャイル分科会

2021年7月7日

v2.4

# 目次：SEPG※の方へ

---

1. アジャイルスタートアップキットはこんなもの
2. お悩み相談：アジャイル開発をしたいと言われたら
3. アジャイルSEPGの知恵袋と共に育っていこう

※ SEPG (Software Engineering Process Group) は  
カーネギーメロン大学ソフトウェア工学研究所のサービスマークです。  
組織の方針に基づいて、組織で使用されるプロセスの定義、保守、および改善を  
促進する専門家の集団です。

# 1. アジャイルスタートアップキットはこんなもの

---

1.1. はじめに

1.2. アジャイル開発スタートアップキットとは

1.3. アジャイル開発スタートアップキットのコンセプト

1.4. アジャイル開発スタートアップキット 3つのNO!

1.5. アジャイル開発スタートアップキットの構成

1.6. アジャイル開発スタートアップキットの相関図

1.7. アジャイル開発スタートアップキットの活用イメージ

1.8. アジャイル開発を支援するSEPGの活動

## 1.1. はじめに

---

- 「アジャイル開発スタートアップキット」は、JASPICのアジャイル分科会の活動を通じて収集・集積した研究員の知見に基づくものである。
- アジャイル開発が注目され、普及していく中で、重要なアジャイル開発のマインドセットが必ずしも理解されておらず、アジャイル開発の恩恵が得られずに挫折する事例も少なからず存在する。
- 研究員の経験や入手できる事例、他団体のアジャイル開発に関するアンケート結果などから、アジャイル開発を導入する際には、留意・注意すべきポイントがあると考えた。
- そこで、アジャイル開発を導入する際の不安や疑問点を解消し、アジャイル開発を成功に導くためのキットを策定した。SEPGが開発現場を支援する一助になれば幸いである。

## 1.2. アジャイル開発スタートアップキットとは

---

以下にアジャイル開発スタートアップキットの概要を示す。  
対象とするペルソナはSEPGである。

アジャイル開発に対する不安やお悩みを解消したい現場を支援するSEPGのための「アジャイル開発スタートアップキット」という名のノウハウ集である。

これはアジャイル開発がよくわからないという現場を助け、支援の仕方や解決のヒントを示すだけでなく、アジャイル開発に不慣れなSEPGを助けるものでもある。

## 1.3. アジャイル開発スタートアップキットのコンセプト

---

アジャイル開発の導入を支援する

導入前の不安や疑問点を解消する

現場を支援するSEPGを助ける

## 1.4. アジャイル開発スタートアップキット 3つのNO!

 アジャイルプラクティスの解説

 ハイブリッド・アジャイルの推奨

 プロジェクト・プロダクトの成功保証

このNO!が気になる方はアジャイル分科会までお問い合わせください

## 1.5. アジャイル開発スタートアップキットの構成

アジャイル開発スタートアップ  
ガイド（本書）

アジャイル開発スタートアップ  
キットのコンセプトと使い方を  
解説

アジャイル開発問診票

アジャイル開発を導入する組  
織・チームに向けた問診票と  
診断結果を示すレーダー  
チャート

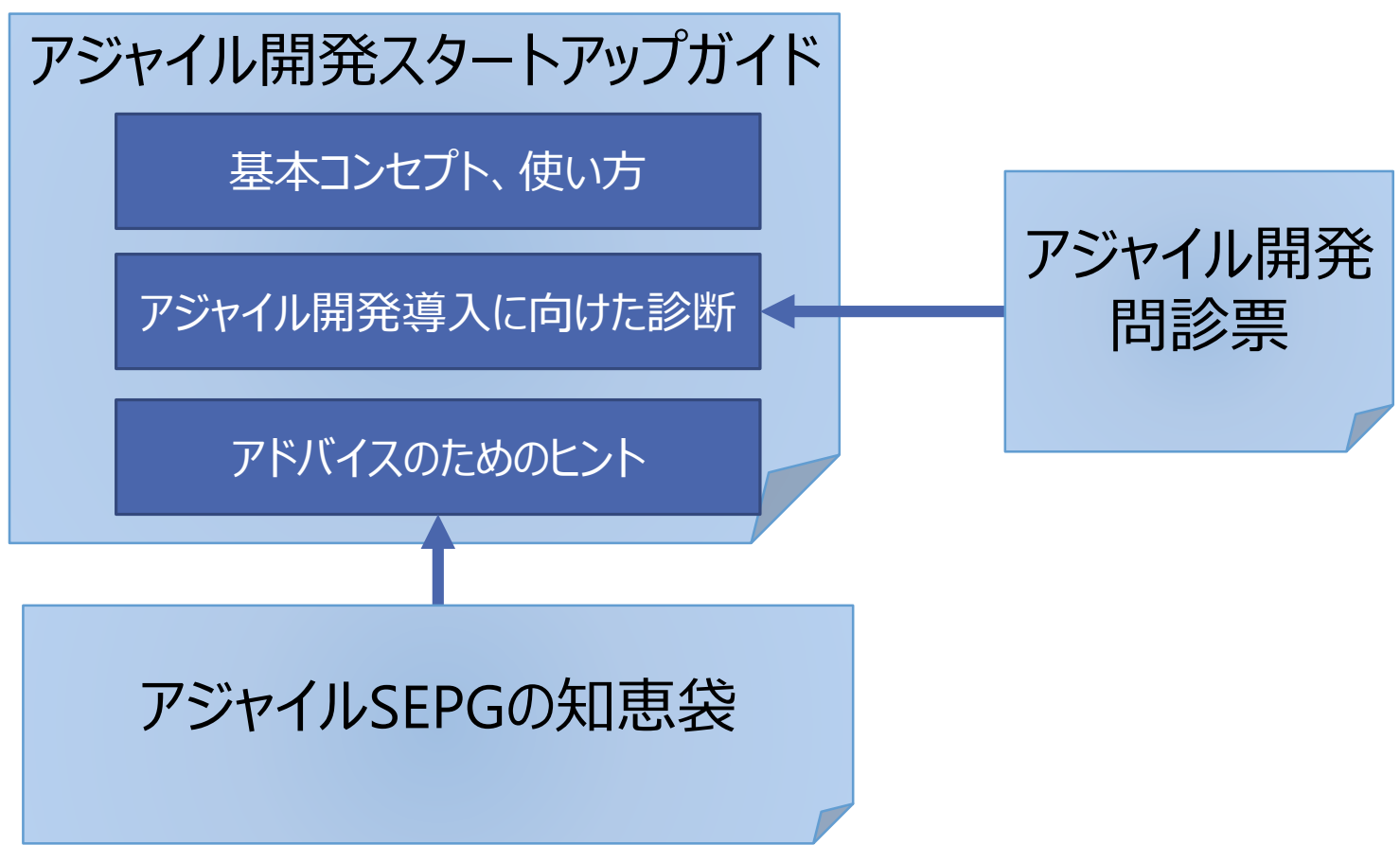
アジャイルSEPGの知恵袋

診断結果を踏まえた、現場  
支援のヒントを提供

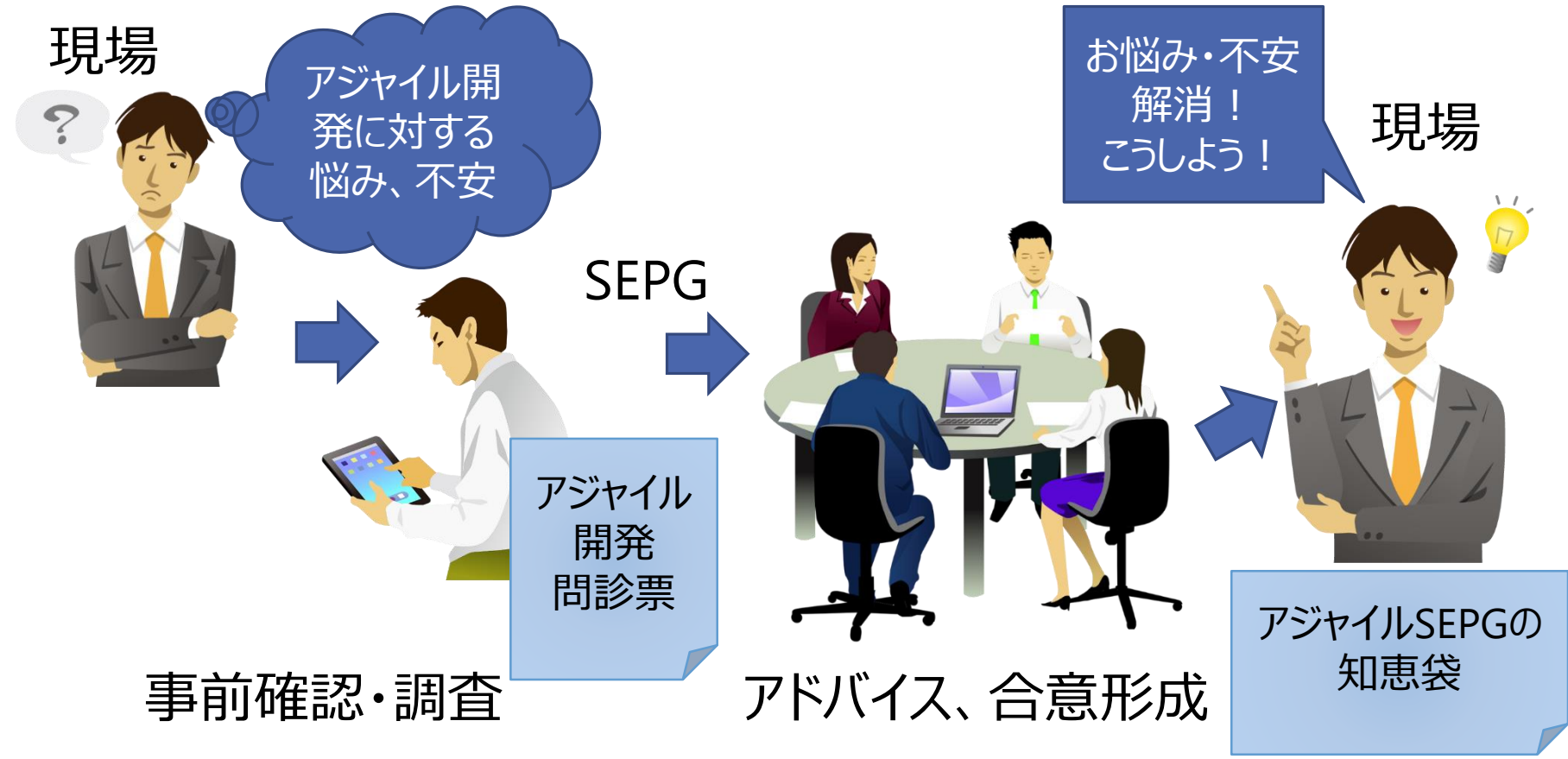


# 1.6. アジャイル開発スタートアップキットの相関図

参考：相関図

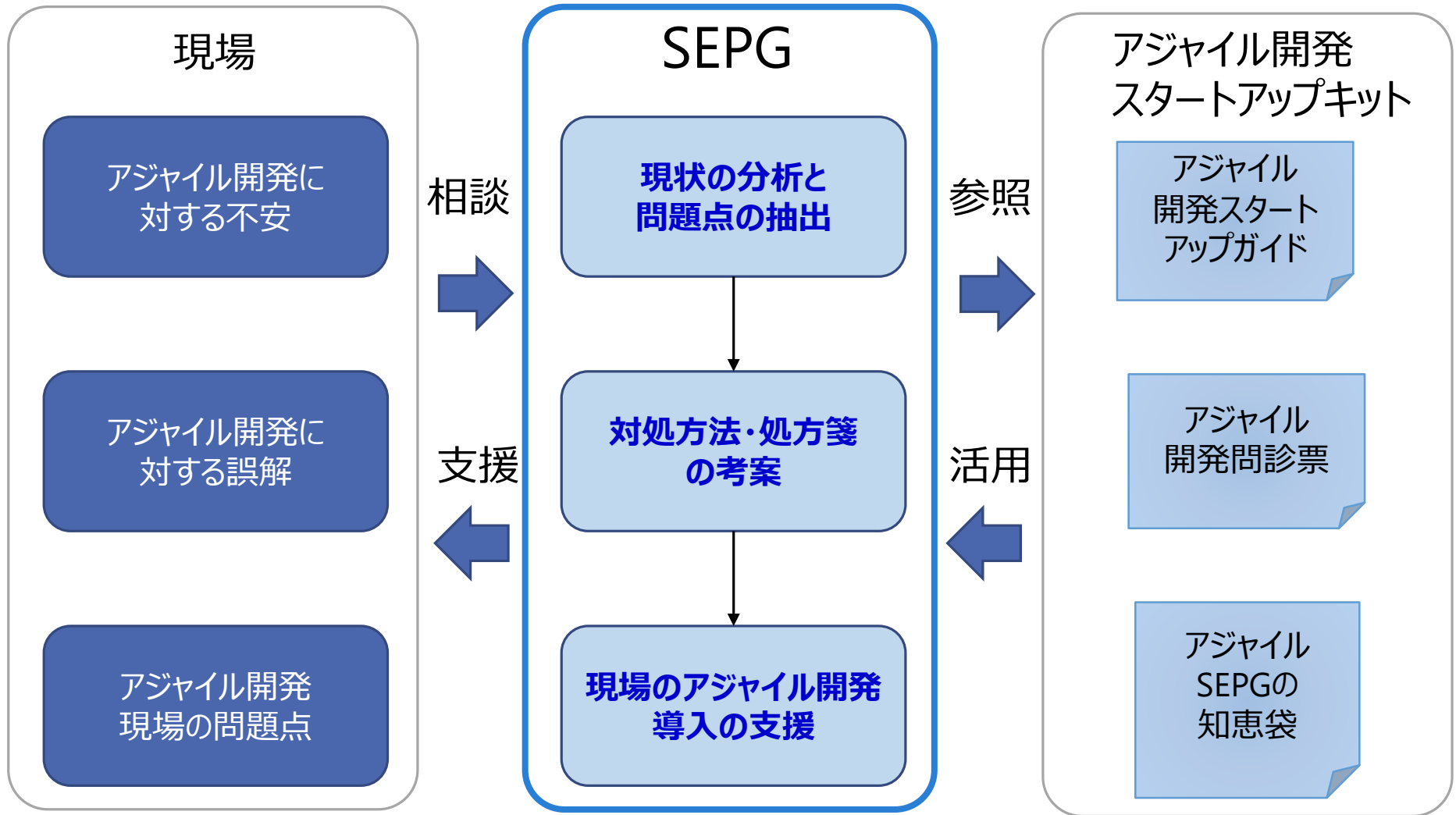


# 1.7. アジャイル開発スタートアップキットの活用イメージ



アジャイル開発スタートアップガイド

# 1.8. アジャイル開発を支援するSEPGの活動



## 2. お悩み相談： アジャイル開発をしたいと言われたら

---

2.1. アジャイル開発を始めるときの問題を知っておこう

2.2. アジャイル開発の本質を理解しないと失敗する

2.3. アジャイル開発の本質を理解しよう

2.4. 相談を受けたSEPGがすることは

①現状を分析し、問題点を抽出

②対処方法・処方箋の考案

③現場のアジャイル開発導入の支援

## 2.1. アジャイル開発を始めるときの問題を知っておこう

アジャイル開発をしたい、という人や組織は、何を期待しているのだろうか。

顧客は、いつでも、いくらでも仕様変更ができるのでは、と思い込んでいたり、

開発チームは、面倒なドキュメント作成から解放されたり、楽しそうなプラクティスをやってみたい、と安易に考えてないだろうか。

### 安易な期待

いつでも、いくらでも変更できる



### 誤解

ドキュメント不要！  
楽しそう



### 無理解

楽しそう！  
真似したい！



## 2.2. アジャイル開発の本質を理解しないと失敗する

PMIやJISAのアンケートによれば、アジャイル開発をやってみたものの、その後やめたという回答が少なからずあり、その多くはアジャイルの「本質」を理解していないとの報告がある。

顧客は開発期間中にレビューや相談などで関与が増えると不満をもち、楽しいはずのプラクティスをやっても、コミュニケーションが図れず、肝心の開発がとん挫する。

思ったより自由がないし、呼ばれる会議が多い



失敗したのはアジャイルのせいだ！



うまくいかない！もうアジャイルはやめた！



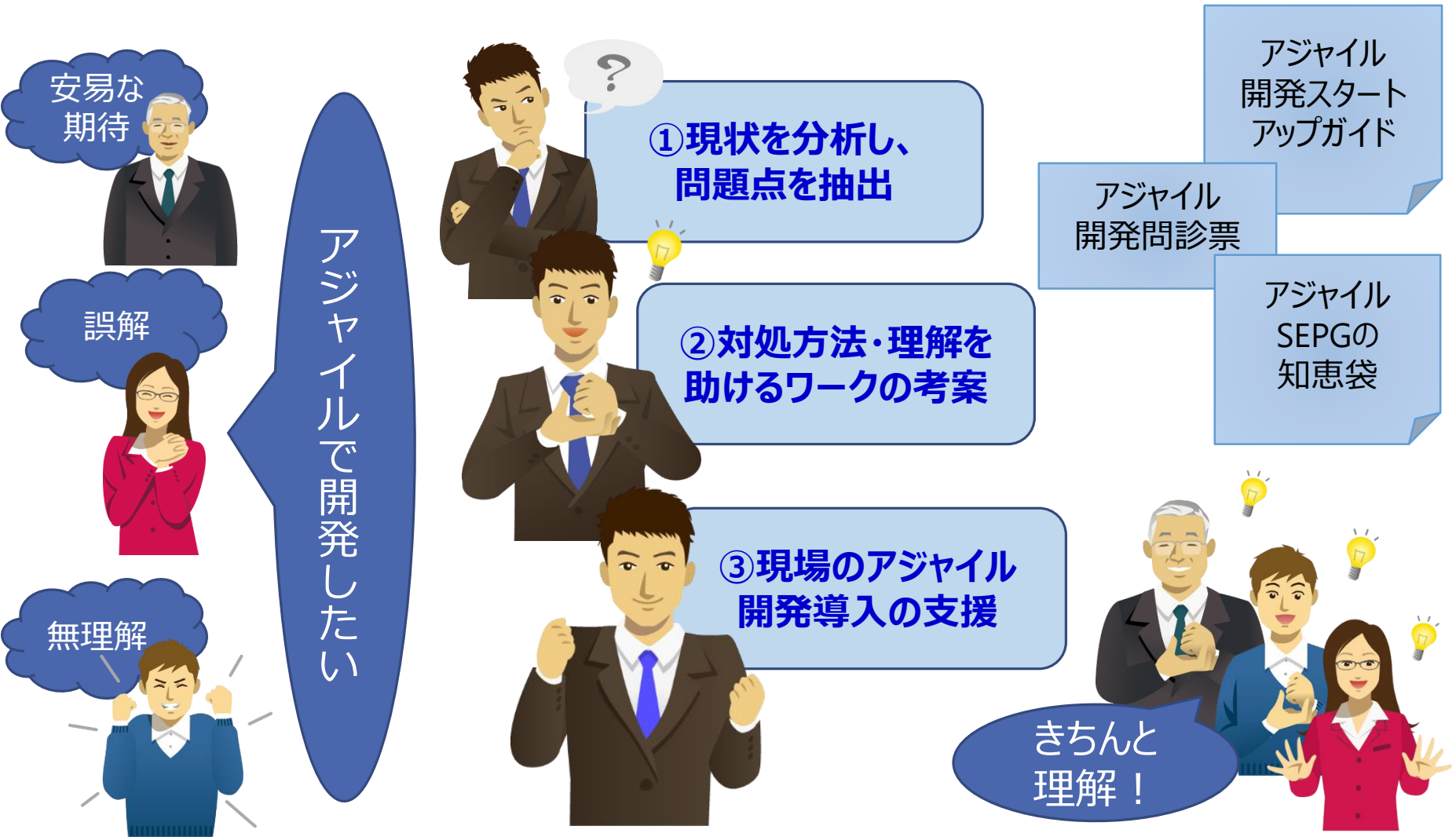
## 2.3. アジャイル開発の本質を理解しよう

アジャイル開発を成功させ、本来のメリットを引き出すためには、アジャイルの本質：「マインドセット」を理解しよう。

アジャイル開発が解決しようとしているソフトウェア開発の課題、根底となる価値観や原則、それを実現するためのプラクティス、これらを知った上で活用していこう。



## 2.4. 相談を受けたSEPGがすることは





## 2.4. 相談を受けたSEPGがすることは

### ①現状を分析し、問題点を抽出-1

まず始めに、取り組もうしているプロジェクト・案件が、アジャイル開発を進めようとしたときに、どのような課題があるか、確認しよう。

そのために、「アジャイル開発問診票」を用意した。

アジャイル開発に対する不安やお悩みを解消したい

現場を支援するSEPGのための

「アジャイル開発問診票」という名の

質問集である。

これはアジャイル開発に向けた課題を明らかにし、

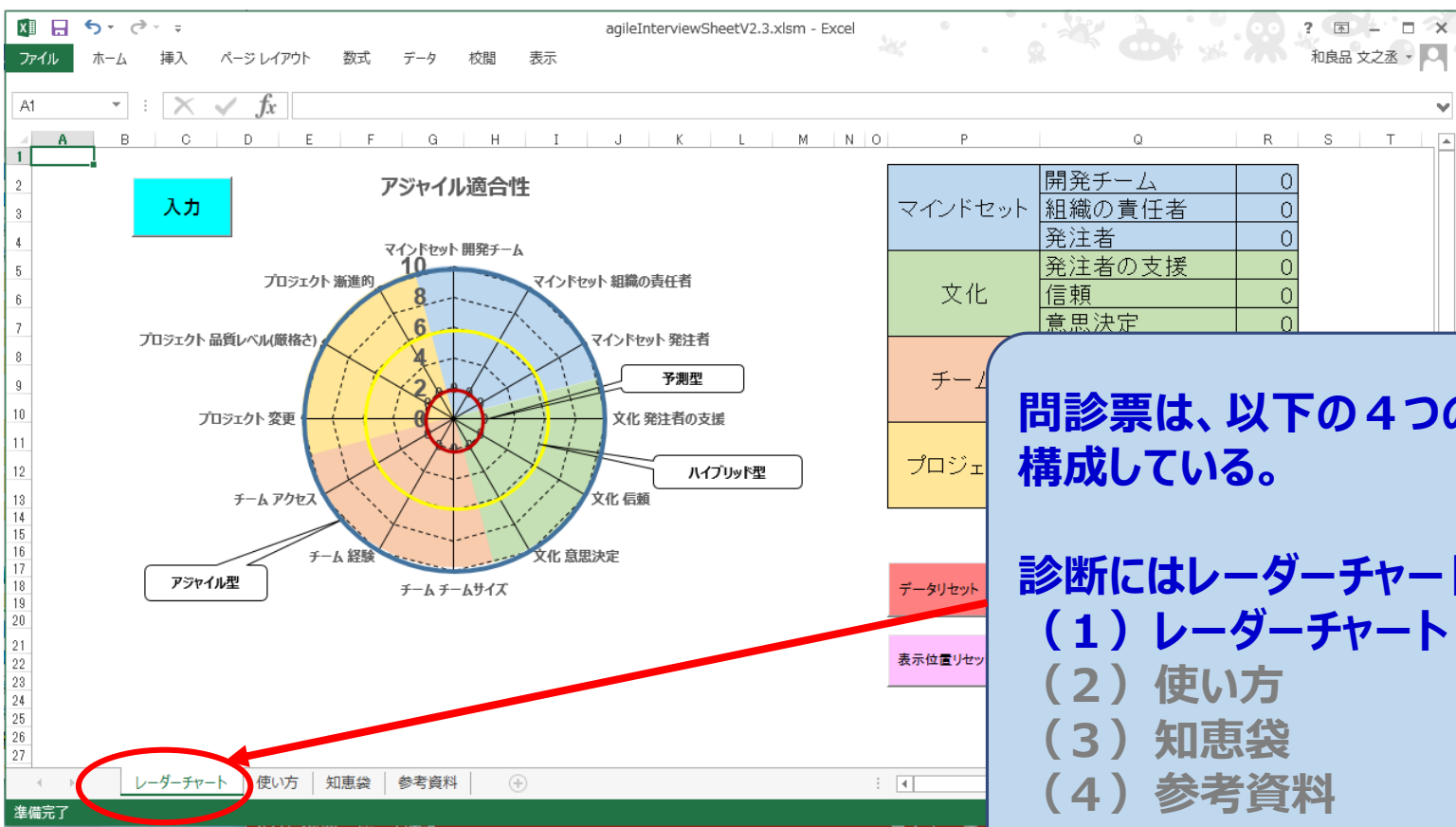
修正) 診断結果から解決の糸口を探せるように

知恵袋とリンクしている。

# 2.4. 相談を受けたSEPGがすることは ①現状を分析し、問題点を抽出-2

## 「アジャイル開発問診票」の構成

**問診票は、Excelのブックである**



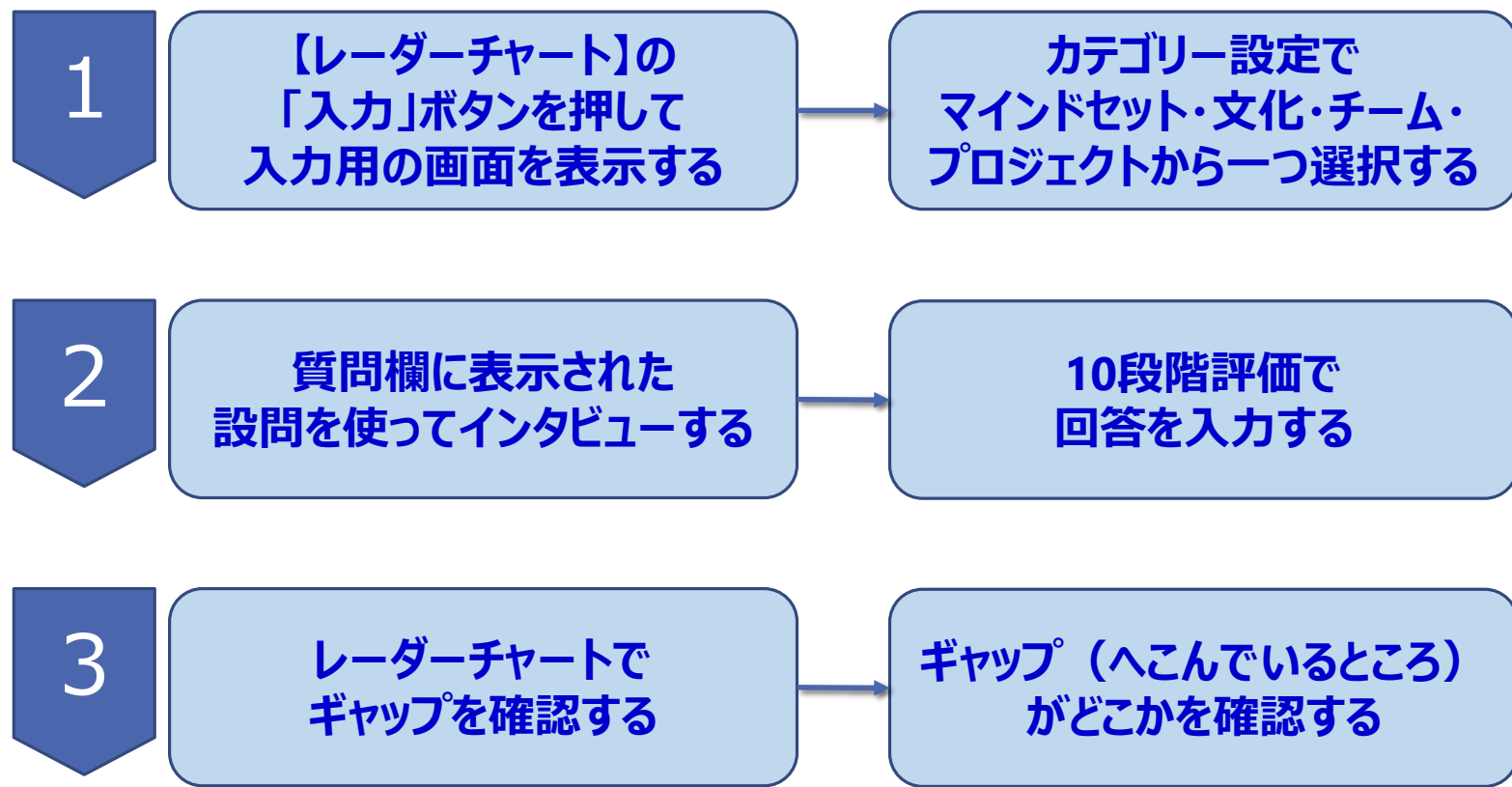
**問診票は、以下の4つのシートで構成している。**

**診断にはレーダーチャートを用いる。**

- (1) レーダーチャート
- (2) 使い方
- (3) 知恵袋
- (4) 参考資料

## 2.4. 相談を受けたSEPGがすることは ①現状を分析し、問題点を抽出-3

「アジャイル開発問診票」の利用手順は以下のとおり



# 2.4. 相談を受けたSEPGがすることは ①現状を分析し、問題点を抽出-3-1

1

【レーダーチャート】の「入力」ボタンを押して入力用の画面を表示する

カテゴリ設定でマインドセット・文化・チーム・プロジェクトから一つ選択する

アジャイル適合性

マインドセット 開発チーム

プロジェクト 漸進的

プロジェクト 品質レベル(厳格さ)

プロジェクト 変更

チーム アクセス

チーム 経験

アジャイル型

マインドセット 組織の責任者

マインドセット 発注者

予測型

文化 発注者の支援

文化 信頼

文化 意思決定

チーム チームサイズ

アジャイル問診票 Version 2.3

カテゴリ設定

マインドセット

アジャイルソフトウェア開発の価値観や原則がステークホルダに理解されているか。

質問

設問1  
開発チームは、アジャイルソフトウェア開発宣言を読み、内容を理解した上で、共感し、実践していく意思をもっているか。  
(1:いいえ~10:はい)

設問2  
開発チームが所属する組織の責任者は、アジャイルソフトウェア開発宣言を読み、内容を理解した上で、共感し、実践していく意思をもっているか。  
(1:いいえ~一部~10:はい)

設問3  
発注者（自社製品の場合は事業の責任者）は、アジャイルソフトウェア開発宣言を読み、内容を理解した上で、共感し、実践していく意思をもっているか。  
(1:いいえ~一部~10:はい)

JASPIC Agile分科会 2019/11/20 Ver 2.3

R

「R」で表示位置を固定できる

# 2.4. 相談を受けたSEPGがすることは ①現状を分析し、問題点を抽出-3-2

2

質問欄に表示された  
設問を使ってインタビューする

10段階評価で  
回答を入力する

回答を入力するとレーダ  
チャートに反映される

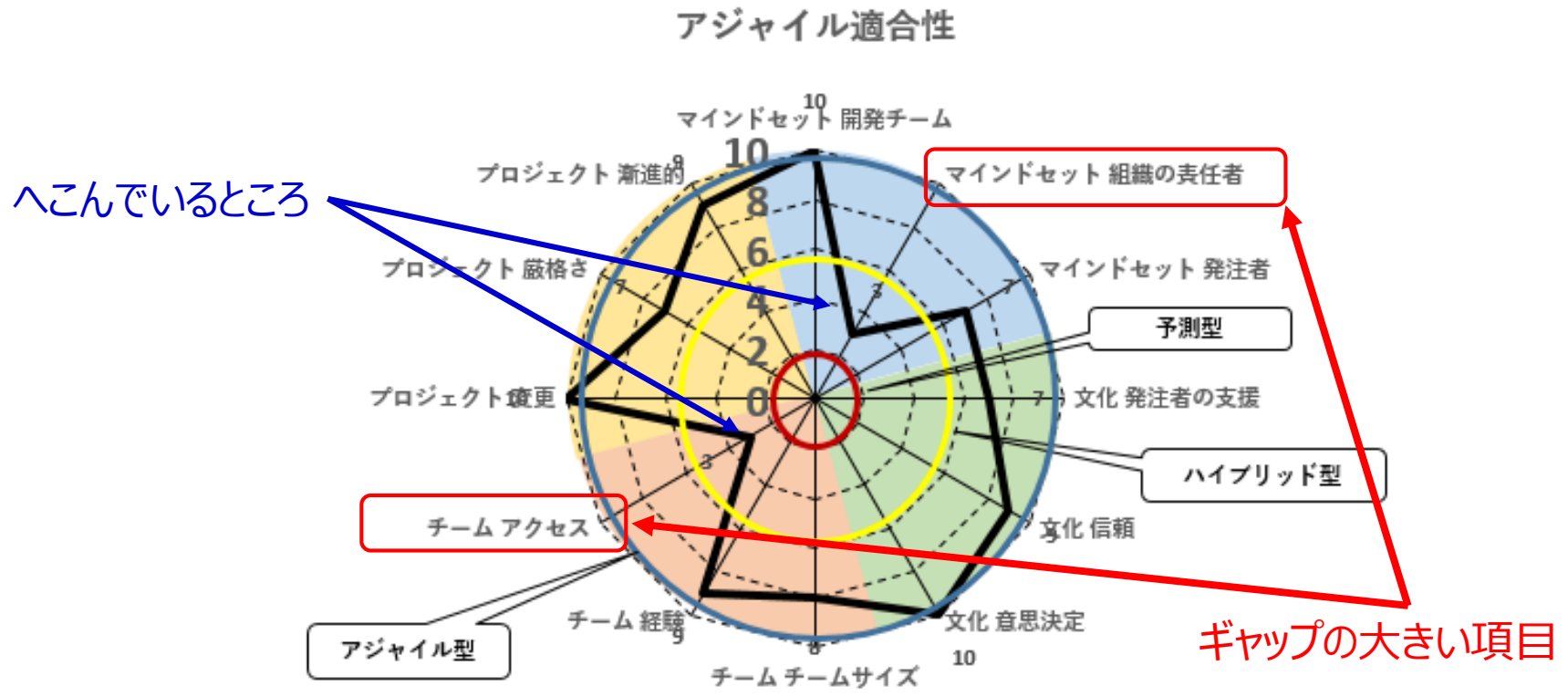
各設問の「ヒント」を押すと、回答のヒントが表示される

## 2.4. 相談を受けたSEPGがすることは ①現状を分析し、問題点を抽出-3-3

3

レーダーチャートで  
ギャップを確認する

ギャップ<sup>o</sup> (へこんでいるところ)  
がどこかを確認する

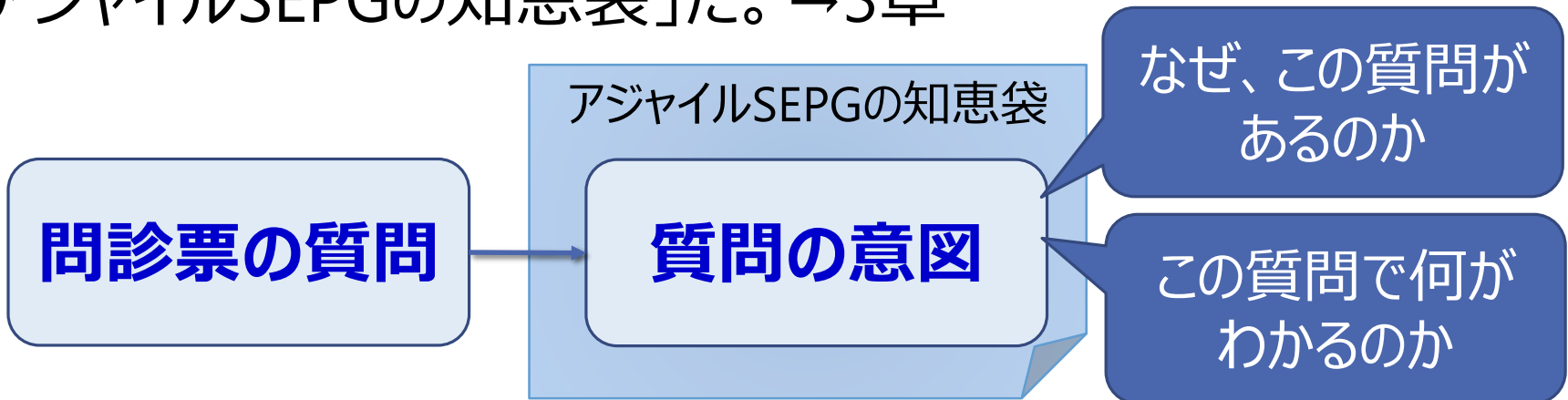


## 2.4. 相談を受けたSEPGがすることは ②対処方法・理解を助けるワークの考案

「アジャイル開発問診票」でギャップを確認したら、まず始めに、自分の組織では、どうしてその評点になったのか、まずはSEPGの観点で具体的に記述してみよう。

評点の根拠となる具体的な状況を記述できたら、ギャップとなった質問の「意図」を確認し、どうあるべきかを確認しよう。

そのためのアジャイルに関する情報をたぐりよせる道具が「アジャイルSEPGの知恵袋」だ。→3章



## 2.4. 相談を受けたSEPGがすることは

### ③現場のアジャイル開発導入の支援

SPEGとしてギャップを埋める必要性と、具体的な問題点やあるべき姿を確認したら、開発現場と一緒に課題を解決していこう。

アプローチは②と同じだが、現場が主体となって考え、実行していくことが大事だ。SEPGはその現場を支援する。

現場に、「アジャイル開発問診票」でギャップと、SEPGが記述した評点の根拠を確認してもらい、どのようにギャップに対処するかを考える手助けをしよう。

ここでも「アジャイルSEPGの知恵袋」を活用しよう。「意図」に続く「知恵袋」で現場を支援する際のヒントを手に入れよう。

→3章



# 3. アジャイルSEPGの知恵袋と 共に育っていこう

---

- 3.1. アジャイルSEPGの知恵袋とは
- 3.2. アジャイルSEPGの知恵袋活用の注意点
- 3.3. アジャイルSEPGの知恵袋の内容
- 3.4. 「分類」の役割を知っておこう
- 3.5. 「分類」の内容と意図を理解しよう
- 3.6. 「分類」をキーに課題解決のヒントを拾おう
- 3.7. アジャイルSEPGの知恵袋を成長させよう

## 3.1. アジャイルSEPGの知恵袋とは

---

アジャイル開発を導入したい、現場を支援したいというアジャイル開発関係者やSEPGのための「アジャイルSEPGの知恵袋」という名の情報集である。

これはアジャイル分科会メンバーの知見を集めたもので、問診票の質問の意図を説明し、現場支援のためのヒントを提供するだけでなく、分科会メンバーが収集したお役立ち情報を示すものである

## 3.2. アジャイルSEPGの知恵袋活用の注意点

---

- アジャイルSEPGの知恵袋の内容は、JASPICアジャイル分科会の参加者から寄せられた情報、文献、成果物だ。
- SEPGの知見として親しみ、現場の人やお客様の支援に役立てていただければ幸いに思う。
- 内容には、有償のものや、JASPIC以外の団体の所有する資料、特定企業の事例なども含まれている。
- 引用、転記、展開などには、都度慎重な判断をお願いすると共に、活用は各自の責任において行うことを約束して欲しい。

# 3.3. アジャイルSEPGの知恵袋の内容1/4

## 「アジャイル開発知恵袋」の構成

**知恵袋は、Excelのブックである**

**知恵袋は、以下の2つのシートで構成している。**

- (1) レーダーチャート
- (2) 使い方
- (3) 知恵袋
- (4) 参考資料

## 3.3. アジャイルSEPGの知恵袋の内容2/4

### ■ シートの説明

#### 知恵袋

問診票の質問と評点をリンクした上で  
質問の意図と現場支援のヒントを記載

#### 参考資料

知恵・知見の概要と参照先（主に  
URL）を記載

# 3.3. アジャイルSEPGの知恵袋の内容3/4

## ■知恵袋

この内容の一部は入力画面の「知恵」で表示できる

質問が意図すること、  
ギャップを埋める理由

現場支援のための  
ヒント

回答のガイド  
(入力画面の  
設問のヒントと同じ)

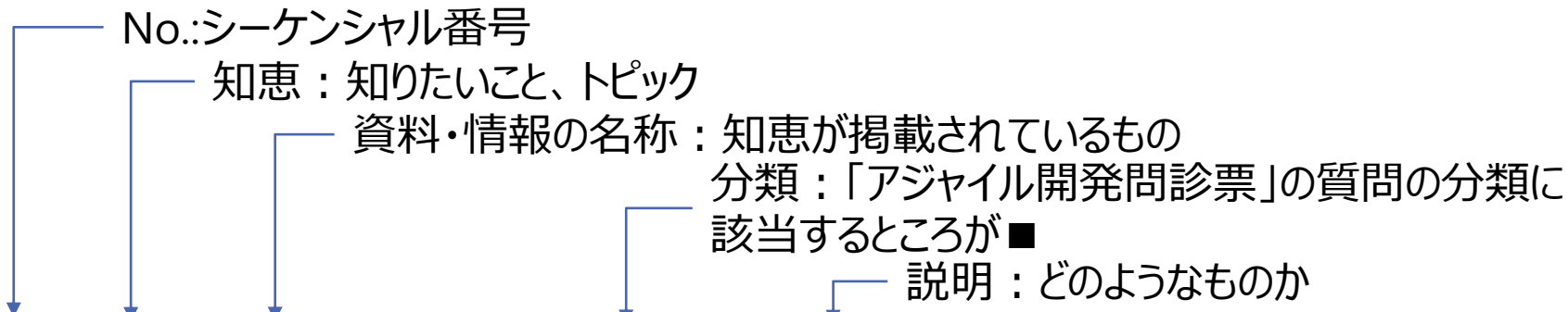
評点  
(入力画面と同じ)

質問の内容  
(入力画面と同じ)

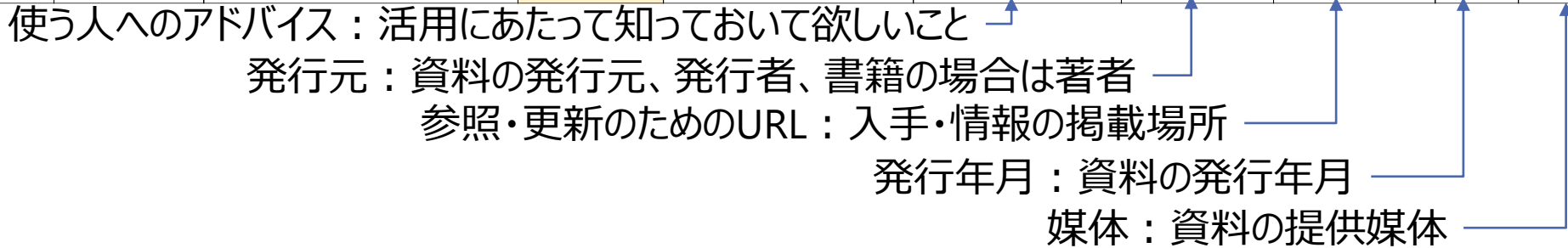
No.	分類 知恵袋参照	項目	質問	回答 1:ギャップ 10:適合	意図 ギャップを埋める理由	知恵袋 現場支援のヒント	回答のガイド
1	マインドセット	開発チーム	開発チームは、アジャイルソフトウェア開発宣言を読み、内容を理解した上で、共感し、実践していく意思を持っているか。 (1:いいえ～10:はい)	8	開発チームが、アジャイル型の価値観を理解し、その実践にコミットすることが非常に重要である。 誤った解釈は誤った活動につながる。アジャイル開発の恩恵が受けられない、かつアジャイル開発に対する信頼を失う。	アジャイルソフトウェア開発宣言の勉強会開催、IPAの資料「アジャイルソフトウェア開発宣言の読みと書き」の説明会開催、アジャイルレーニング受講など、アジャイル型の開発が目指すものに対する理解を深めたらどうか。	開発チームが、アジャイルソフトウェア開発の価値観を理解し、その実践にコミットすることが非常に重要である。 ここでは、開発チームがアジャイルソフトウェア開発における価値観や原則を理解し、実践していく意思があるかどうかを確認します。 チームメンバーが全員、必ずしも同じ意図ではない場合には、チームとしてどのような状況にあるかを考えてもらって、全員がきちんと理解している＝10点として、相対的に点数を決めるようにしてください。
2	マインドセット	組織の責任者	開発チームが所属する組織の責任者は、アジャイルソフトウェア開発宣言を読み、内容を理解した上で、共感し、実践していく意思を持っているか。 (1:いいえ～10:はい)	5	開発チームが所属する組織の責任者が、アジャイルソフトウェア開発の価値観を理解し、開発チームがそれを実践する事に協力することが非常に重要である。 組織の責任者がアジャイルソフトウェア開発の狙い・本質を理解することで、チャンピオン（開発チームを擁護し支援する立場）になっていただきたい。	アジャイル開発で成果を出している組織の責任者や経営者に、事例紹介や成果報告をしていただいたら、共感が得られるのではないかと。	開発チームが所属する組織の責任者が、アジャイルソフトウェア開発の価値観を理解し、開発チームがそれを実践する事に協力することが非常に重要である。 ここでは、開発チームが所属する組織の責任者が、アジャイルソフトウェア開発における価値観や原則を理解し、実践していく意思があるかどうかを確認します。 よくわからない場合には、わからないこと自体をリスクとして3点以下にして、理解の認識につなげましょう。
3	マインドセット	発注者	発注者（自社製の場合は事業の責任者）は、アジャイルソフトウェア開発宣言を読み、内容を理解した上で、共感し、実践していく意思を持っているか。 (1:いいえ～10:はい)	7	発注者もアジャイルソフトウェア開発の価値観への理解とその実践にコミットすることが非常に重要である。 発注者のアジャイルソフトウェア開発への典型的な誤解は、「いつでも、いくらでも、要件の変更ができる」というものである。さらに、アジャイルソフトウェア開発では、発注例が果たす役割や関与が重要で、相応の負担が求められることを理解していないこともある。	そもそも発注してはいけない案件である。 このギャップが大きい場合には、アジャイル型に進むことが本当に良いのか、受注前に考えて欲しい。 まずは、発注者がアジャイル型を理解していただくことが優先である。	発注者も、アジャイルソフトウェア開発の価値観への理解とその実践にコミットすることが非常に重要である。 ここでは、発注者が、アジャイルソフトウェア開発における価値観や原則を理解し、実践していく意思があるかどうかを確認します。 よくわからない場合には、わからないこと自体をリスクとして3点以下にして、理解の認識につなげましょう。
4	文化	発注者の支援	発注者（自社製の場合は事業の責任者）は、開発期間中のいかなる時も開発チームに対して継続的な支援と双方方向のフィードバックを行うことを約束しているか。 (1:おそれ無理～10:おそれそう)	7	アジャイルソフトウェア開発では、特に発注者がプロダクトオーナーとして、ビジネスの価値やフィーチャの優先順位を判断するなど、継続的にプロジェクトに関わる必要がある。その覚悟ができていないことが大事である。	発注者がアジャイルを望んでいない以上、受託例はアジャイルを進めることは不可能である。 アジャイル型を進めることに発注例が合意した上で、具体的に、このプロジェクトにおける発注者の役割と責任、どのイベント（ミーティング）に参画するのかが、発注例の理解を確認しておく	アジャイルソフトウェア開発では、特に発注者がプロダクトオーナーとして、ビジネスの価値やフィーチャの優先順位を判断するなど、継続的にプロジェクトに関わる必要があります。 開発期間中、常に発注者として関わることにに対して、その覚悟ができていられるかどうかで評価してください。

# 3.3. アジャイルSEPGの知恵袋の内容4/4

## ■参考資料

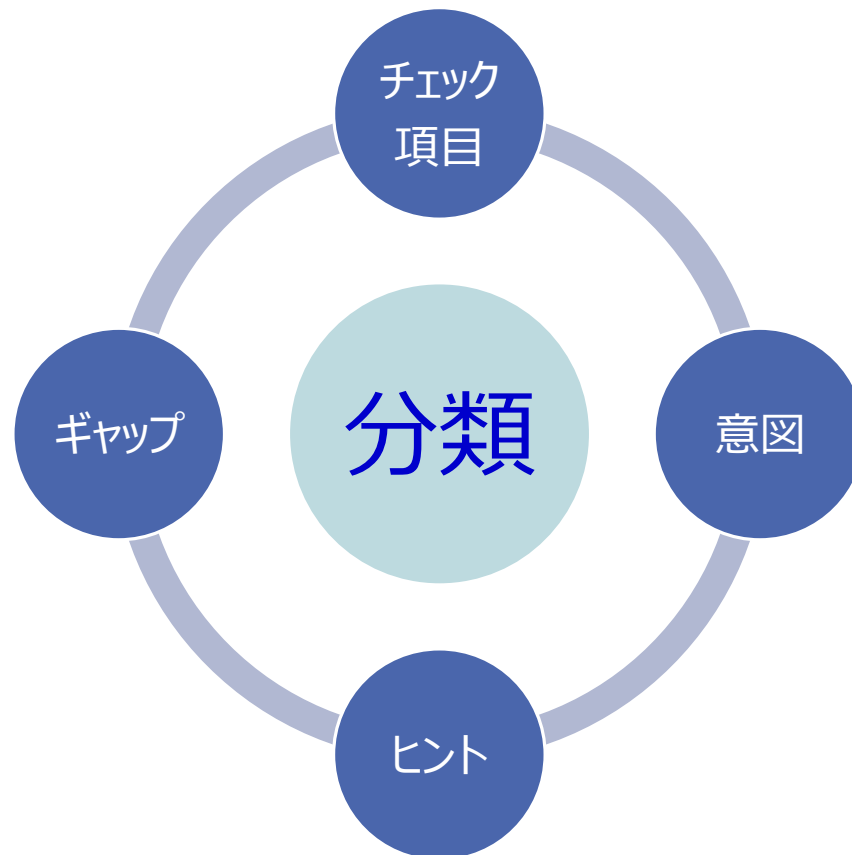


No.	知恵	資料・情報の名称	分類	説明	使う人へのアドバイス	発行元	参照・更新のためのURL	発行年月	媒体
1	アジャイル開発の価値観	アジャイルソフトウェア開発宣言	■マインドセット □文化 □チーム □プロジェクト	アジャイルでソフトウェアを開発する際の価値観（マインドセット）	きちんと解釈するために、「アジャイルソフトウェアの12の原則」(No.2) も読もう	Kent Beck, Mike Beedle, Arie van Bennekum, Alistair Cockburn, Ward Cunningham, Martin Fowler, James Grenning, Jim Highsmith, Andrew Hunt, Ron Jeffries, Jon Kern, Brian Marick, Robert C. Martin, Steve Mellor, Ken Schwaber, Jeff Sutherland, Dave Thomas	<a href="http://agilemanifesto.org/iso/ia/manifesto.html">http://agilemanifesto.org/iso/ia/manifesto.html</a>	copyright 2001	ネットワーク
2	アジャイル開発の原則	アジャイル宣言の背後にある原則	■マインドセット □文化 □チーム □プロジェクト	アジャイルでソフトウェアを開発する人が従うべき原則	IPAの解説 (No.3) を読もう	site design and art work © 2001, Ward Cunningham Japanese translation by Kenji Hiranabe	<a href="http://agilemanifesto.org/iso/ia/principles.html">http://agilemanifesto.org/iso/ia/principles.html</a>	copyright 2001	ネットワーク



## 3.4. 「分類」の役割を知っておこう

「分類」は、アジャイル開発で注意すべき項目を大別したもので、チェック項目、ギャップ、ヒント、知恵袋をつなぐ役割のものだ





### 3.5. 「分類」の内容と意図を理解しよう

分類	内容	意図
マインドセット	アジャイル開発の価値観や原則に関すること	アジャイル開発の恩恵を受けるために、開発チームを始め利害関係者に理解して欲しい
文化	開発チーム・組織・発注者が、アジャイル開発を受け入れられるかどうかに関すること	アジャイル開発を取り入れ、進めていくために、開発チームに対する信頼があり、組織・発注者が役割を果たすことの大切さを認識して欲しい
チーム	開発チームがアジャイル開発を進めていけるかどうかに関すること	開発チームがアジャイル開発を進めることができ、進めるにあたって必要な協力が得られるようになって欲しい
プロジェクト	アジャイル開発を取り入れることによって、恩恵が得られるプロジェクトであるかどうかに関すること	アジャイル開発の恩恵を受けるために、プロジェクトの特性や、開発するシステムやソフトウェアの特性をきちんと理解して欲しい

### 3.6. 「分類」をキーに課題解決のヒントを拾おう

分類	ギャップがある場合の課題	知恵袋・参考資料の活用
マインドセット	アジャイル開発の価値観や原則が、開発チーム、組織、発注者に理解されていない	アジャイル開発の価値観、原則の原典の他、理解を深めるための解説がある
文化	開発チーム・組織・発注者にアジャイル開発を受け入れるための信頼や、それぞれの役割の理解が不足している	アジャイル開発を進めるにあたり、どのようにアジャイル開発が進み、そのために組織、開発チーム、発注者がどのような役割を果たすのかを記載した情報がある
チーム	開発チームがアジャイル開発を進めていくための理解・自覚・環境が不足している	アジャイル開発の進め方と、そこに利害関係者がどのように関わり、開発チームは何に責任を持つのかを知るための情報がある
プロジェクト	アジャイル開発を取り入れることによって、恩恵が得られるプロジェクトであるかどうかに関すること	プロジェクトの特性や、開発するシステムやソフトウェアの特性から、アジャイル開発に向くか、向かないかを考え、判断するための情報がある

## 3.7. アジャイルSEPGの知恵袋を成長させよう

---

- アジャイル開発の知識や経験を積んだら、今度は、アジャイルSEPGの知恵袋を育てていこう。
- 次に続くSEPGが、現場を支援するのに困ったときに助けとなるよう、以下の工夫と配慮をしてあげよう
  - 「逆引き」＝「知りたいこと、ニーズ」を先に書く
  - ピンポイントの知見、役に立つと思うちょっとしたことも埋め込んでいく
  - 文献や書籍は丸ごとよりも、見どころ、お勧め、ためになった部分などをピックアップする

# 旅立つSEPGの方へ

---

単に、アジャイル開発スタートアップガイドを読んできた、というだけでは、まだまだ現場を支援するのに不安があるかも知れない。そんなSEPGの方へ次の言葉を贈る。

## SEPGは先人の知見と現場の知恵と共にあれ

アジャイル開発は、目的や課題を利害関係者が共有して一緒に解決にあたるもの。

アジャイル開発は、早く失敗して、そこから学び、より良くできるようプロセスも取組みも変えていくもの。

アジャイル開発の知見、経験はJASPICにもあって、直接相談や問い合わせもできる。

最後のページをSEPGのために用意した。アジャイル開発であなたが目指すことを書きいれて、この資料をあなたのためのもので完成させて欲しい。

アジャイル開発で

プロセス改善

アジャイル分科会



***Thank you***